

七月二日

近頃少しばかり行動半径が狭くなってきたのを自覚する。地理的な広さ、狭さの問題ではなく、むしろ自身の構想力の大きさの問題に属するものだ。年を取れば体力は自然に落ちるが、それと同じに構想力の領土が狭くなるのは辛い。カバーコラム2本「ひろしまハウス」1・2書いて、大学へ。

十六時過大学。渡辺君他と打合わせ。O邸のディテール、庭園の吐水口、及び複雑な屋根の排水、樋のデザインの基本方針を決めて、広島の本木君に送附。クライアントに感謝しなければならぬ。十七時五〇分大学発。十八時三〇分新宿にてKさんファミリーと会食。二十二時前迄。楽しい会であった。

七月三日 日曜日

宮本常一写真・日記、集成パンフレットの表紙の写真が素晴らしい。いつ見ても気持ちがおそらく一九五〇年代の瀬戸内の海だろうが、大きな渡し船に乗った三〇名程の小学生達が宮本のカメラに向かって笑っている写真である。皆いい笑顔だ。今の日本人とは全く異なる民族としか思えぬような顔である。昨夜Kさんも、日本の将来はもう駄目だろうと言っていたが、この五〇年代の子供達の写真を見ても、今の若者達の顔つきとは恐い位にあまりの違いがある。九時過世田谷村発、国分寺O邸へ。打合わせ。十二時前迄。十三時頃世田谷村に戻る。

七月四日

週初めの今日は、十時半研究室。打合わせを始める。十八時四十五分迄延々と打合わせ、及び研究室内レクチャーを続ける。流石に、水を飲んでもコーヒーを補給しても、消耗した。昼食は同じテーブルでのサンドイッチのみ。十九時、今朝モスクワより帰ったばかりのW氏来室。ロシアでのビジネスの経過を聞く。着々と、じわじわといっているようで心強い。中国の李祖原と連絡、北京の仕事も大ツメに辿り着いた。二〇時近江屋で会食、というよりもビール飲んで疲れをいやす。二十一時二〇分頃了、新宿を経て、烏山へ。

七月五日

十時研究室。学部レクチャー準備。十時四〇分レクチャー、及び質疑応答。大学院のレクチャーの質疑応答とは全く違う質問が多く、とまどいを隠せない。変なところで院生の成長を実感した。午後いささかの雑用を処理する。

夕方より、北京、台湾と通信。中国の仕事にはタフネスとスピードが要求される。小さな事でグライについていたら前進できない。反日デモの行方、小泉首相の靖国参拝その他諸々、北京オリンピックの開催を揺るがす出来事が起きるかも知れぬが、それは天に任せるしかない。それにしても北京のK氏の行動半径の広いのには驚く。パリ、スイス、ワシントン、北京を切れ目なく飛び回っている。中国の若い実力者と互角に渡り合うのは、先ず気力、体力が必須である。MSP野口社長ともモスクワの件で連絡。モスクワの仕事もハードである。命がけて動き廻っているコンドルの群だなコレワ。二十一時半修了。二十二時半世田谷村着。